

事務事業マネジメントシート(平成28年度実績と平成29年度計画)

平成29年12月4日更新

事務事業名	ことぶき・高齢者講座事業		<input type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連	
総合計画体系	政策	3 教育の健康	所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	北里利朗
	施策	10 生涯学習の推進	所属課	生涯学習課	担当者名	大隅理央
	施策の柱	37 学習の啓発と参加機会の提供	所属班	生涯学習班	(内線)	1515
予算科目	会計一般	款 10	項 5	目 3	事業連番 10445	根拠法令 社会教育法
終了、開始年度	<input checked="" type="checkbox"/> 28年度で終了 <input type="checkbox"/> 28年度から開始		事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)		
						成果優先度評価結果 : ⑤ コスト削減優先度評価結果 : ⑨

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	本市は「元気・活力・創造まち」を将来都市像に掲げ、全ての市民が安全に安心して暮らすことができるまち「健康都市こうし」の実現に向け、60歳以上の市民を対象に、元気あるまちに住んでいることに生き甲斐を感じ、生計を立て、自己を学びも含め、充実した生活を送ることを目的に、様々なテーマの講演会や研修を開催する。学習内容は、「市政について」「健康管理について」「防災について」などをテーマに取り組んでいる。類似事業のため、平成28年度に生涯学習講座開催事業(10794)に統合。
【業務の流れ】	①事業計画、講師依頼、受講生の募集・受付 ②毎月の開催日の案内 ③会場の設営、講演会の実施 ④研修旅行計画、募集、実施
【主な予算費目】	報償費(講師謝金)、需用費(記念誌作成代)
【意見や要望】	高齢者を対象としているため、講座日は市バスの運行を行なっているが、交通の便が悪いという意見がある。

1 現状把握の部 (DO, PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分:
①手段(主な活動) 28年度実績(28年度に行った主な活動)(DO)	熊本地震の影響により最低限の事業(防災講座、終活講座、健康講話、研修旅行(清和文楽等))を実施した。	29年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 講座生主催のことぶきフェスティバル、交通安全講座、文化協会コンサート、健康講座、研修旅行など
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 講座実施回数	8回
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	60歳以上の市民及び一般市民	②対象指標(対象の大きさを表す指標) (単位) 60歳以上の市民 600人
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	受講生が増える	③成果指標(意図の達成度を表す指標) (単位) ことぶき大学の受講生(参加延べ人数) 548人
*③成果指標設定の理由と29年度目標値設定の根拠 受講生が増加することにより、社会参加している高齢者が増加することにつながり、高齢者の自立促進につながるから		総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	26年度実績(決算)	27年度実績(決算)	28年度目標(当初予算)	28年度実績(決算)	28年度目標(当初予算)	予定	見込	見込
① 活動指標	ア 8回		11	11	11	8				
② 対象指標	ア 600人		9,280	17,338	18,000	600				
③ 成果指標	ア 548人		763	2,049	2,100	548				
投資入費量	財源内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
	(A) 事業費計	千円	209	182	0	0				
	(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0				
(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0					
人件費	正規職員従事人数	人	4	1	4	2				
	延べ業務時間	時間	770	5	142	70				
(B) 人件費計		千円	3,067	18	565	0				
トータルコスト(A)+(B)		千円	3,276	200	565	0				

事務事業名	ことぶき・高齢者講座事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	生涯学習課
-------	--------------	-----	-------------	-----	-------

2 評価の部 (CHECK)

*原則は28年度の事後評価、ただし複数年度事業は28年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①28年度目標達成度評価	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】 講座生が固定して高年齢をむかえており、また熊本地震の影響により学習会への参加者が減少している。今後は、一般参加を呼びかける必要がある。
	②29年度目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 学習内容の固定化やそれに伴って受講生の減少がある。近年は健康や認知症予防など重視されているので、より多くの人が興味を持ち、学びたいと思うような学習内容を考案する必要がある。
有効性評価	③成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 代表者会議での意見の集約や受講生からアンケートを取り、より魅力的な内容とすることで、新規受講生獲得を目指したい。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 近年「高齢者教養講座事業」と「ことぶき大学事業」が統合を行なった。今後は、広く一般市民にも参加者を募り、誰でも参加可能な「市民講座」へしていきたい。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 現在この事業にかかる費用は講師謝金と記念誌作成代で、これ以上の削減は難しい。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 最小限の人員で事業を実施しているため、これ以上の削減はできない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 参加者は限定してはいるが、参加したくても参加できない市民もいることから、今後は受益者負担も検討していく必要がある。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 60歳以上の市民を対象としていて、それらの方に、講師との交渉、講座の中身づくり、受講生への通知等全てを負担させるのは難しい。

3 評価結果の総括 (CHECK)

受益者負担の観点から、受講者には一定の費用を負担してもらう必要がある。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可

- 廃止 休止 目的再設定 事業統廃合・連携 事業のやり方改善 (有効性改善)
事業のやり方改善 (効率性改善) 事業のやり方改善 (公平性改善)
現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)

広く一般市民にも参加を募り、老若男女の生きがいの場を提供する。

(2) 改革・改善による期待成果

(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			
	低下			

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策